

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294201716		
法人名	医療法人社団 秀慈会		
事業所名	グループホーム 桃源の丘 (1Fユニット)		
所在地	静岡県静岡市駿河区国吉田6-6-6		
自己評価作成日	令和6年3月5日	評価結果市町村受理日	令和6年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.nhiw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&jiyosyoCd=2294201716-008&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和6年3月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

寄り添う介護をテーマとして施設側の都合に合わせるのではなく、各利用者様の意思決定支援をし個別ケアを考えて対応しております。ご自宅で生活をしているような雰囲気を作り利用者様はもちろん職員も笑顔が多くコミュニケーションを大事にする施設を目指しております。医療法人秀慈会グループ事業所として医療面のバックアップもあり、認知症対応のできる職員も配置しており御家族様も安心していただける環境だと思っております。近年のコロナ禍にて外出などが減っておりますが、利用者様が寂しい思いをしないようレクリエーションや行事を充実をし対応をさせていただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

お寿司を握って食べたり、ハンバーガーや餃子作りの会など参加型の食事には自然に笑顔が浮かびます。中でも黒はんぺんや茄子、海苔、大葉などを揚げた天ぷらの会は、揚げる様子を観覧するのみでしたが、興味津々な様子で食い入るように見つめる姿もあり、非日常を堪能できた日となっています。そのような活力ある食生活とは裏腹に、利用者の身体機能や嚥下機能は認知症の進行とともに低下しており、事業所では想定されるリスクに基づいた安全な業務フローの策定にも積極的に取り組んでいます。タイムスケジュールの改良により、「食器洗浄や口腔ケアを日勤に委ねてもよい」との意識も生まれ、余裕をもった働き方につながっています

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	秀慈会の家訓R3年より新しくなっています。理念と家訓に基づき新たに桃源の丘の方針、方向性を具現化し、皆で共有し、実践につなげていきます。	法人の家訓(理念)が見直されていますが前回と大きくは変わっておらず、朝礼で掲示の読み上げを続けていることから職員に浸透しています。また小さくプリントしたミニカードを職員に用意しており、法人内の異動であっても入職者にはそれを示して説明しています	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍も引き続き油断ならないため、利用者様が他者との交流の場が減ってしまっていますが、周辺を散歩したときに近所の方や小学生たちに挨拶したりする程度です。今後の情勢も踏まえて交流を増やしていきます。	コロナ禍の影響も少なからずあり、地域との付き合いはありません。一方敷地内の看護小規模多機能型居宅介護事業所とは隣近所的な行き来があり、利用者の熱発などには様子を見に来てくださり、助けられています	4月からは、自治会長にも指南を受けて「どういう行事をやっているか」を探して防災をはじめとする地域行事に参加したいとしていますので、年間計画に位置づけた確実な実現を期待します
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍もあり、地域交流があまりできていない現状です。運営推進会議は8月より対面にて行っております。今後は、情勢をみて地域貢献に協力できるよう努力していきます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前年に続き、コロナ禍のため前期は運営推進会議が書面での報告のみとなりましたが、後期より対面で行い利用状況や取り組みの報告をし意見交換を行いサービス向上に繋げております。	コロナ禍で長く書面開催としていましたが、5類以降を受けて参集に至り、地域包括支援センターや薬局、民生委員といったメンバーが再会しています。また業務改善の内容を書面も準備して発表する場としており、大いに活かしています	次の3点を期待します。①併設事業所と合同開催していますが、記録は別にすること②出席者からの貴重な意見を議事録に残すこと③行事、平均介護度、職員の離職、入職など運営状況を明示すること
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点を問い合わせる時や運営推進会議の資料をFAXにて送付しております。	コロナ禍から現在に至るまで運営指導はありませんが、運営推進会議の資料をFAXで市役所へ送信することで現状を知ってもらえるよう、努めています。また運営推進会議にも参加くださっている地域包括支援センターからは空室照会も入っています	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年度も静岡県の身体拘束0宣言をしており、身体拘束0に近づけるよう日々努力しております。緊急ややむをえない拘束については家族に説明し、同意いただいております。	「事故対策会議・身体拘束適正化委員会」の中では、インシデント、アクシデントの振り返りとともに具体的な現場事例が協議されています。また勉強会には習得度の確認を兼ねてアンケートを実施するほか、確認テストもおこなわれ、取組が丁寧です	委員会開催は3ヶ月毎の枠組は守られているものの、やや不定期です。また6月から始めるとアクシデントがあったとき月変更ができないため、4月、7月、10月、1月と順次定期で開催することを期待します
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	普段より虐待についてはスタッフ全員で気をつけています。身体のみでなく、言葉の虐待、性的虐待、ネグレクト、スピーチロックなどないように注意を払っております。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の親族や身元引受人様への定期的連絡をおこなっている。物品の補充や面会も必要に応じておこなっています。遠方の方、仕事の忙しい方、家族の事情も把握しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ゆっくり丁寧に説明して不安や疑問点やわからないことを尋ね、十分に理解していただくように努めています。不明な点があれば、いつでも管理者が窓口になり対応しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様のモニタリングや随時カンファレンスを行い、変更点や問題点、家族からの意見があれば職員で共有しております。	「桃源の丘通信」を2ヶ月に1回、家族に送っています。家族から特段要望や意見は届いていませんが、利用者からは「外出したい」「家族と会いたい」といった要望が挙がっています。法人としては未だ解禁にはなっていないため、もどかしい状況にあります	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案があれば、その都度、話を聞く管理者や役職者も職員の状況を気にして話しかけるよう対応しております。相談しやすい関係雰囲気作りを努めています。	カンファレンスを不定期に実施しており、その中で「朝、大変なんです」との職員の声から、管理者がリスクを鑑みた業務フローの改善をおこない、「食器洗浄や口腔ケアを日勤に委ねてもよい」との意識も生まれるに至る、余裕をもった働き方につながっています	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の自己評価、ヒアリングを実施している。各自の思い、考え方を尊重し、感謝の思いを伝え、より一層やりがいや向上心を持って働けるよう、職場環境の整備に努める。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内のキャリアパス研修の参加、事業所内の勉強会を行い、他部署との連携屋やスキルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加盟している。同業他者やケアマネ、認定調査員、福祉用具の方たちと交流をはかり、情報交換している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に得た情報をスタッフ全員で共有する。安心して不安なく生活していただけるよう環境作り、居室や座席など考慮してじっくりと本人との信頼関係作りをおこなっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に家族の事情、不安、要望を聞いておく、各利用者様に担当スタッフがついており、日常の変化、健康状態なども家族に連絡している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況において優先順位を考えた対応をしている。 今までの生活歴や環境を確認したうえ、施設で対応可能なものを実現出来るよう努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様は人生の先輩であり、尊厳を大事にし、必要に応じて、職員が手伝う。出来る事は継続しておこなっていただき、生きがいを持って生活していただく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍のため面会の機会が大幅に減りましたが、繋がりを閉ざさぬよう家族への報告、連絡、相談をおこない、利用者様にも家族の話をして安心して頂いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため、外出、外泊等は少なくなったが、感染予防対策をし、面会の緩和が来ています。今後情勢をみて外出等の機会を増やせるような努力をする。	運動会は座ったままでできる競技が工夫され、またクリスマスパーティーなど在宅の頃のままでの時節行事が励行されています。新聞は供覧を継続し、どの家庭にも大抵はある梅干しをストックすることで食が進まない利用者に勧めるといった配慮があります	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアでの座席配置を考え職員が間に入り、利用者様同士の架け橋となり、孤立せずに仲良く会話されている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内の病院や施設に移った場合や外部に入院した場合も、電話連絡や面会、お見舞いをし、相談も受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	初回のアセスメント時に本人の思いを伺い、それ以降もカンファレンスを通したり、日々の生活の様子を観察し、随時思い伺い検討している。	日向ぼっこで身体がほぐれたときや、気分が高揚するのドライブで車窓を眺めているときなどは発語が増えています。「そのような好機をキャッチしてください」「記録に残していきましょう」と管理者が推奨して、想いや要望が介護記録に残されています	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	若い時からの習慣や、自宅に近い環境作りに配慮し、対応している。本人や家族からの聞き取りを大事にして情報収集に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自由に安全に1日を過ごせるように職員がゆったりとした環境を作り、その中で心身状態の早期発見に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のモニタリングの実施。担当者を中心に介護記録や本人、家族、主治医、理学療法士、看護師、薬剤師の意見も取り入れ、チーム全体で意見を出し取り組んでいる。	2表の担当者欄には介護職以外の家族や訪問看護師、理学療法士が位置付けられ、「皆で応援していこう」との使命と責任が感じられます。担当者欄でも確認できるように専門職を交えたチームケアが提供されています	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の看護記録やヒヤリハット、インシデントなど多く取り上げ、職員間で情報共有しながら気付かなかったことを発見し、意識向上に努める。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や御家族の状況に応じ法人内の法人内の病院に付き添いや送迎で対応している。今年度も、コロナワクチン、インフルエンザ予防接種も法人内ので対応。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設周辺を散歩している。食事レクなどで必要な食材を近所のスーパーに買い物に行ったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1回の訪問診療にて系列の病院より医師が診察に来ております。緊急時も主治医との連携がとれるようになっております。外部への受診は家族にお願いしています。訪問歯科診療が施設で治療ができています。	訪問診療が月1回あり、管理者または副主任が立ち合っています。併設の事業所とは別の法人内の訪問看護事業所から週1回看護師の来所があり、健康管理にも余念がありません。眼科などの専門医は家族が通院介助をおこなっています	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度の定期訪問看護にて状況を伝え、アドバイスをいただいております。緊急時にも訪問看護への電話連絡や隣接している、看多機の看護師に連絡して、対応していただけているようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先への面会やお見舞い、家族への連絡で状況を把握する。医療機関や御家族との情報共有に努める。退院後の受け入れや情報共有がスムーズに行えるように医療機関の相談員と連絡をとる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族の考えや希望を伺ったうえで、法人内ですることをお伝えする。系列の病院に入院できることをお伝えする。重度化の場合は、訪問看護、主治医との連携を取り、チームで支援に取り組む。	看取りはおこなっていません。また医療的ケアも事業所内ではできないため、重度化の兆候がみられた場合は医師の意見を仰ぎ、特別擁護老人ホームなど地域の施設や病院への移設を家族も交えて検討し、速やかな対応を図っています	重度化に係る指針が現在ありません。不具合はないと法人が判断したのでしたらかまいませんが(法令での規程はないため)、一度検討することを期待します
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急搬送マニュアル作成し提示してある。初期対応や応急処置に関しては看護師より指導を受け対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内での防災訓練を行い、避難の手順、停電時に備え、ランタンや発電機、カセットコンロを用意し、災害に備え、飲料水、非常食を備蓄する。	年2回の災害訓練は避難誘導が主体です。火元は変えています、2回ともに日中想定です。また夜間想定と水害対策については未達です。食料備蓄は3日ですが、ローリングストックを含めると6日程あります	次の3点を期待します。①2回の内1回は夜間想定をおこなう②毎回発電機を作動させて動くか可能かチェックする③安全点検業者のチェックとともに立ち合いを求める

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人や御家族の思いを尊重し、どうすれば、安心安全に過ごして頂けるか考える。居室には御本人や御家族が希望するものを置いてもらいその方の生活の場として頂いている。	業務日誌の記述内容や量からは職員が利用者を常に見守り、更には観察眼も高めていることが覗えます。呼称については最初は名字で呼び、親しさが増した頃には下の名前だと管理者が呼びかけており、「～さん」呼び、敬語が定着しています	大半の職員の介護日誌は充実していますが、一部不十分な職員もいます。書き方はケアサービスと連動すると思われるため、まずは記録の書き方の指導があることを望みます
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフの声かけにより、一方的に介護や介助を行うのではなく、ご本人に自己決定の機会をあたえている。家訓の通り、利用者様第一に行動する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	フロアでの座席の配置や個々のADLに合わせた活動など、希望に沿うように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容、散髪や入浴、排泄後の衣類の身だしなみを整える。外出時の服装にも配慮している。再開した、月に一度のビューティーヘルパーで散髪してもらう。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に一度、食事レクやおやつレクを取り入れ調理や盛り付けに利用者様が参加している。普段の食事でも暖かいものは温かく、冷たいものは冷やして提供し美味しく食べていただけるよう工夫している。	毎食、業者からパウチで届いています。業者は「食の楽しみ」への意識も高く、イベント的なものに協力くださっていて、自分でお寿司を握って食べたり、ハンバーガー作り、餃子作りの会など参加型の食事が実現しており、笑顔に結ばれています	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量の記録をしている。必要に応じて食事形態合わせた食事や水分ロミをつけて提供している。食事介助する場合もあるが、基本的に自立出来るよう、食器やスプーンなどはご本人合ったものを使用し召し上がっていただくようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ブラッシング後に磨き残しを確認する。義歯は洗浄し施設で管理する。自分で口腔ケアできる方は自分で行っていただき、必要に応じて介助する。また、訪問歯科を導入し、定期的に受診と治療を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄を記録している。定時誘導ではなく、一人ひとりのペースに合わせ可能な限りトイレで排泄できるように、取り組んでいる。尊厳、自尊心に配慮した対応を心がけている。	平均介護度は2.9、車いすを利用する人は4名です。日中は「トイレ誘導」を旨とし、車いす利用であっても便座で排せつが叶っていて、おむつの人はいません。また夜間の尿量の増加への対応など、消耗品の大きさや種類は都度検討されています	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便パターンを理解するよう心がけている。水分補給や運動(体操、散歩)をしたり、乳製品や乳飲料を飲んで頂くなど、個別に応じた対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の誘いを拒否されれば、無理に行わず、一人ひとりの希望を優先する。脱衣所、浴室、入浴剤、ラジオ等の工夫しながら、リラックスした気持ちで入浴頂いている。	拒否の症状の人が1名いますが、時間や人を替えて入ってもらえており、同性介助の希望にも応じています。袖子を浮かべたり、脱衣所にラジオを流すなどの趣向もあります。「夕方入りたい」は職員配置上難しく、午前を午後にすることで納得が得られています	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息を希望されれば、否定せずにゆっくり休んでいただいております。ある程度の時間になりましたら声掛けをさせて頂き無理を頂かないようお願いしております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が内服している。薬を理解し日々の状態にも注意して変化があれば、早期発見できるように努めており、訪問診療、訪問看護で診察やアドバイスを頂き、内服の調整を行っております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の盛り付けや洗い物、洗濯物を干したり、畳んでもらったり、生活の中でお手伝い頂けることや季節の飾りつけの作品作りを行っております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため、機会は減りました。散歩は午後、マンツーマンで出かけたり、坂や畑、学校もあり、気分転換になっています。玄関先で日光浴もしています。	好天で過ごしやすい日は事業所の周辺を散歩しています。坂が多く不安材料もあることから、自力歩行でも車いす使用であっても1対1としていて、職員は頻回になりがちなものの、利用者は1週間に1度程度は戸外の風を感じる事が出来ています	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお金は預かってはいません。小銭程度のお金を所持している方は数人おります。コロナ禍以前、希望ある方はお菓子などを車で買いに行ったりしていました。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いは、全員が出しています。それら以外でも家族の方から手紙がきたら返信することもあり、職員が手伝ってかいています。必要に応じて電話で話す機会もあり、臨機応変に対応しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンの開け閉めで、日光調整、エアコン調整などで、室温もコントロールしている。不快にならないよう清掃に努め、天気の良い日は窓や玄関を開けて換気する。	オゾン水、空気清浄機 換気への取組などコロナ禍の感染対策をそのまま継続させていて、衛生管理第一に環境が整えられています。利用者も手洗い、消毒のほか、「咳が」「鼻水が」となればマスクの着用にも協力くださっています	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席の配は置工夫している。気の合った利用者様は隣に座ったり、コミュニケーションが苦手な方でも、共有スペースにて楽しめるような居場所になるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用したものの持ち込み、タンスや仏壇、ぬいぐるみなど配置。家族やペットの写真やレクで作ったカレンダーや飾りなどを居室に展示している。	ひな祭りには家族が届けてくださったミニチュアひな壇が置かれていた部屋もあります。また4名の車いすの利用者の内、1名は自走です。3名は職員がベッドまで送り届けるものの4室全て動線確保の見直しをおこない、ベッドを壁側に寄せるといった手が入っています	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内と居室はほぼバリアフリーの環境のため、つまづきにくい環境で自立して歩行できる。ベッドも低床ベッドを用意し、自由かつ安全が実現できるよう取り組んでいる。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294201716		
法人名	医療法人社団 秀慈会		
事業所名	グループホーム 桃源の丘 (2Fユニット)		
所在地	静岡県静岡市駿河区国吉田6-6-6		
自己評価作成日	令和6年3月5日	評価結果市町村受理日	令和6年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.nhiw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&jiyosyoCd=2294201716-008PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和6年3月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

寄り添う介護をテーマとして施設側の都合に合わせるのではなく、各利用者様の意思決定支援をし個別ケアを考えて対応をしております。ご自宅で生活をしているような雰囲気を作り利用者様はもちろん職員も笑顔が多くコミュニケーションを大事にする施設を目指しております。医療法人秀慈会グループ事業所として医療面のバックアップもあり、認知症対応のできる職員も配置しており御家族様も安心していただける環境だと思っております。近年のコロナ禍にて外出などが減っておりますが、利用者様が寂しい思いをしないようレクリエーションや行事を充実をし対応をさせていただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

お寿司を握って食べたり、ハンバーガーや餃子作りの会など参加型の食事には自然に笑顔が浮かびます。中でも黒はんぺんや茄子、海苔、大葉などを揚げた天ぷらの会は、揚げる様子を観覧するのみでしたが、興味津々な様子で食い入るように見つめる姿もあり、非日常を堪能できた日となっています。そのような活力ある食活動とは裏腹に、利用者の身体機能や嚥下機能は認知症の進行とともに低下しており、事業所では想定されるリスクに基づいた安全な業務フローの策定にも積極的に取り組んでいます。タイムスケジュールの改良により、「食器洗浄や口腔ケアを日勤に委ねてもよい」との意識も生まれ、余裕をもった働き方につながっています

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	秀慈会の家訓R3年より新しくなっています。理念と家訓に基づき新たに桃源の丘の方針、方向性を具現化し、皆で共有し、実践につなげていきます。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍も引き続き油断ならないため、利用者様が他者との交流の場が減ってしまっていますが、周辺を散歩したときに近所の方や小学生たちに挨拶したりする程度です。今後の情勢も踏まえて交流を増やしていきます。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍もあり、地域交流があまりできていない現状です。運営推進会議は8月より対面にて行っております。今後は、情勢をみて地域貢献に協力できるよう努力していきます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前年に続き、コロナ禍のため前期は運営推進会議が書面での報告のみとなりましたが、後期より対面で行い利用状況や取り組みの報告をし意見交換を行いサービス向上に繋げております。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明な点を問い合わせる時や運営推進会議の資料をFAXにて送付しております。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年度も静岡県の身体拘束0宣言をしており、身体拘束0に近づけるよう日々努力しております。緊急ややむをえない拘束については家族に説明し、同意いただいております。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	普段より虐待についてはスタッフ全員で気をつけています。身体のみでなく、言葉の虐待、性的虐待、ネグレクト、スピーチロックなどないように注意を払っております。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の親族や身元引受人様への定期的連絡をおこなっている。物品の補充や面会も必要に応じておこなっています。遠方の方、仕事の忙しい方、家族の事情も把握しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ゆっくり丁寧に説明して不安や疑問点やわからないことを尋ね、十分に理解していただくように努めています。不明な点があれば、いつでも管理者が窓口になり対応しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様のモニタリングや随時カンファレンスを行い、変更点や問題点、家族からの意見があれば職員で共有しております。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案があれば、その都度、話を聞く管理者や役職者も職員の状況を気にして話しかけるよう対応しております。相談しやすい関係雰囲気作りに努めています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の自己評価、ヒアリングを実施している。各自の思い、考え方を尊重し、感謝の思いを伝え、より一層やりがいや向上心を持って働けるよう、職場環境の整備に努める。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内のキャリアパス研修の参加、事業所内の勉強会を行い、他部署との連携屋やスキルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加盟している。同業他者やケアマネ、認定調査員、福祉用具の方たちと交流をはかり、情報交換している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に得た情報をスタッフ全員で共有する。安心して不安なく生活していただけるよう環境作り、居室や座席など考慮してじっくりと本人との信頼関係作りをおこなっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に家族の事情、不安、要望を聞いておく、各利用者様に担当スタッフがついており、日常の変化、健康状態なども家族に連絡している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況において優先順位を考えた対応をしている。 今までの生活歴や環境を確認したうえ、施設で対応可能なものを実現出来るよう努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様は人生の先輩であり、尊厳を大事にし、必要に応じて、職員が手伝う。出来る事は継続しておこなっていただき、生きがいを持って生活していただく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍のため面会の機会が大幅に減りましたが、繋がりを閉ざさぬよう家族への報告、連絡、相談をおこない、利用者様にも家族の話をして安心して頂いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため、外出、外泊等は少なくなったが、感染予防対策をし、面会の緩和が来ています。今後情勢をみて外出等の機会を増やせるような努力をする。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアでの座席配置を考え職員が間に入り、利用者様同士の架け橋となり、孤立せずに仲良く会話されている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内の病院や施設に移った場合や外部に入院した場合も、電話連絡や面会、お見舞いをし、相談も受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	初回のアセスメント時に本人の思いを伺い、それ以降もカンファレンスを通したり、日々の生活の様子を観察し、随時思い伺い検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	若い時からの習慣や、自宅に近い環境作りに配慮し、対応している。本人や家族からの聞き取りを大事にして情報収集に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自由に安全に1日を過ごせるように職員がゆったりとした環境を作り、その中で心身状態の早期発見に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のモニタリングの実施。担当者を中心に介護記録や本人、家族、主治医、理学療法士、看護師、薬剤師の意見も取り入れ、チーム全体で意見を出し取り組んでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の看護記録やヒヤリハット、インシデントなど多く取り上げ、職員間で情報共有しながら気付かなかったことを発見し、意識向上に努める。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や御家族の状況に応じ法人内の法人内の病院に付き添いや送迎で対応している。今年度も、コロナワクチン、インフルエンザ予防接種も法人内ので対応。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設周辺を散歩している。食事レクなどで必要な食材を近所のスーパーに買い物に行ったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1回の訪問診療にて系列の病院より医師が診察に来ております。緊急時も主治医との連携がとれるようになっております。外部への受診は家族にお願いしています。訪問歯科診療が施設で治療ができています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度の定期訪問看護にて状況を伝え、アドバイスをいただいております。緊急時にも訪問看護への電話連絡や隣接している、看多機の看護師に連絡して、対応していただいております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先への面会やお見舞い、家族への連絡で状況を把握する。医療機関や御家族との情報共有に努める。退院後の受け入れや情報共有がスムーズに行えるように医療機関の相談員と連絡をとる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族の考えや希望を伺ったうえで、法人内でできることをお伝えする。系列の病院に入院できることをお伝えする。看取の場合は、訪問看護、主治医との連携をとり、チームで支援に取り組む。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急搬送マニュアル作成し提示してある。初期対応や応急処置に関しては看護師より指導を受け対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内での防災訓練を行い、避難の手順、停電時に備え、ランタンや発電機、カセットコンロを用意し、災害に備え、消費期限が長く持つ飲料水、非常食を備蓄する。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人や御家族の思いを尊重し、どうすれば、安心安全に過ごして頂けるか考える。居室には御本人や御家族が希望するものを置いてもらいその方の生活の場として頂いている。。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフの声かけにより、一方的に介護や介助を行うのではなく、ご本人に自己決定の機会をあたえている。家訓の通り、利用者様第一に行動する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	フロアでの座席の配置や個々のADLに合わせた活動など、希望に沿うように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容、散髪や入浴、排泄後の衣類の身だしなみを整える。外出時の服装にも配慮している。再開した、月に一度のビューティーヘルパーで散髪してもらう。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に一度、食事レクやおやつレクを取り入れ調理や盛り付けに利用者様が参加している。普段の食事でも暖かいものは温かく、冷たいものは冷やして提供し美味しく食べていただけるよう工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量の記録をしている。必要に応じて食事形態合わせた食事や水分ロミをつけて提供している。食事介助する場合もあるが、基本的に自立出来るよう、食器やスプーンなどはご本人合ったものを使用して召し上がっていただくようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ブラッシング後に磨き残しを確認する。義歯は洗浄し施設で管理する。自分で口腔ケアできる方は自分で行っていただき、必要に応じて介助する。また、訪問歯科を導入し、定期的に受診と治療を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄を記録している。定時誘導ではなく、一人ひとりのペースに合わせ可能な限りトイレで排泄できるように、取り組んでいる。尊厳、自尊心に配慮した対応を心がけている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便パターンを理解するよう心がけている。水分補給や運動(体操、散歩)をしたり、乳製品や乳飲料を飲んで頂くなど、個別に応じた対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入の浴誘いを拒否されれば、無理に行わず、一人ひとりの希望を優先する。脱衣所、浴室、入浴剤、ラジオ等の工夫しながら、リラックスした気持ちで入浴頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息を希望されれば、否定せずにゆっくり休んでいただいております。ある程度の時間になりましたら声掛けをさせて頂き無理を頂かないようお願いしております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が内服している。薬を理解し日々の状態にも注意して変化があれば、早期発見できるように努めており、訪問診療、訪問看護で診察やアドバイスを頂き、内服の調整を行っております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の盛り付けや洗い物、洗濯物を干したり、畳んでもらったり、生活の中でお手伝い頂けることや季節の飾りつけの作品作りを行っております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため、機会は減りました。散歩は午後、マンツーマンで出かけたり、坂や畑、学校もあり、気分転換になっています。玄関先で日光浴もしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお金は預かってはいません。小銭程度のお金を所持している方は数人おられます。コロナ禍以前、希望ある方はお菓子などを車で買いに行ったりしていました。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いは、全員が出しています。それら以外でも家族の方から手紙がきたら返信することもあり、職員が手伝ってかいています。必要に応じて電話で話す機会もあり、臨機応変に対応しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンの開け閉めで、日光調整、エアコン調整などで、室温もコントロールしている。不快にならないよう清掃に努め、天気の良い日は窓や玄関を開けて換気する。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席の配は置工夫している。気の合った利用者様は隣に座ったり、コミュニケーションが苦手な方でも、共有スペースにて楽しめるような居場所になるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用したものの持ち込み、タンスや仏壇、ぬいぐるみなど配置。家族やペットの写真やレクで作ったカレンダーや飾りなどを居室に展示している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内と居室はほぼバリアフリーの環境のため、つまづきにくい環境で自立して歩行できる。ベッドも低床ベッドを用意し、自由かつ安全が実現できるよう取り組んでいる。		